

季節と暮らし

- 15 -

ヒヨドリと目があった

～干し柿出来上がり～

軒下に並んだ干し柿が、冬の日差しや風に当たり、少しずつスマートになって、お正月を迎える頃には、甘～くなった。干し柿を作るいちばんの楽しみはお菓子作り。

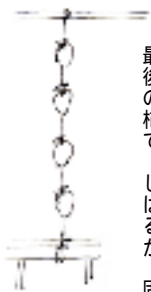


干し柿をひらいて3つか4つをつなぎ合わせ、使ったあと削いだ柚子の黄色い皮をひらいた干し柿の上に並べ、お寿司の海苔巻きみたいに巻いて、崩れないようラップで形をととのえる。冷凍庫に入れて保存。凍ったままで輪切りに出来、天然の甘～いお菓子が真夏でも食べられる。

最近暖冬で、干し柿の様子も変わってきた。お正月過ぎてもそのまま吊して、少しずつ取ってはそのまま食べたり紅白なますに入れたり。合間に前述のお菓子作りをして今年が始まった。

1月も半ば、気温が下がってやっと粉がふきはじめた。そろそろ取り入れる頃になった。と、ある昼下がり、本を読んでいた目をふと窓辺にやったら、干し柿のそばで、ヒヨドリが眺めている。大きなヒヨドリ！気配を感じてこちらを向いたヒヨドリの目と私の目が合った。じっとこちらを見ていたが、席を立ったとたん、ヒヨドリは飛んでいった。

「こんなに美味しいのに鳥はつつきに来ないね」と話したりしていたが、いちばん美味しくなったその時がちゃ～んとわかるんだ。3ヶ月近くかかって出来た干し柿は、ヒヨドリさんにはあ



柿の簡単な干し方
棒からつるしたたこ糸を、
ヘタのところにつけている枝に
まわして行くだけ。
しぼらなくてもよい。
最後の柿で、しぼるか、固定する。

'08.12.15付 朝日新聞夕刊より

窓

論説委員室から *Shizuko*

彼らの罪

山本唐五郎の小説「赤ひげ診療簿」。江戸時代、貧しい庶民たちの医療を担った小石川養生所の医長、新出去定と若い医師との魂の交流を描いた作品だ。黒沢明が監督した映画でも有名な。

その中にこんな一節がある。幕府によって養生所の経営が8分の1削減されることになった。理由は將軍家に姫君が生まれ、それを祝うため、費用が必要になった。その、とぼつちりが養生所の予算に向けられたのだ。

あまりに理不尽な話に怒った新出は、こう考える。「將軍家に慶事があったのなら、罪人を放ち（減刑に）金銭を鹿手するのが当然ではないか」。しかし、現実はまるで逆だ。貧者の命を奪うに等しい。この不条理はどこから生じるのか。

こうした判断を下す支配者、権力者たちに、どうしてそんな権利があるのか。だが、こうも考える。

「かれらの罪は真の能力がないのに權威の座についたこと、知らなければならぬことを知らないところにある」。かれらはもっとも貧困であり、もっとも愚かな者より愚かで無知なのだ。かれらこそ責めねばべき人間どもなのだ。

西洋にもノーブレス・オブリージという言葉がある。高い地位にある者には、おのずと課せられる道徳的、精神的な義務があるということだ。

いまの日本はどうか。新出が憤った為政者たちと、選挙で選ばれた政治家たちと違いがあるのか。新出の公憤は、時代を超えて生き続けている。〈劇野則〉

上記の記事、どう感じられたでしょうか。みなさまのご意見・ご感想・情報などをお寄せください。お待ちしております。

～禁煙治療は保険診療の対象です～

ニコチン依存を断ち切って、健康な生活を!!

人々のたばこに対する意識が高まり、喫煙率は減る傾向にあります。健康増進、老化の防止など、禁煙のメリットはたくさんあります。あなたとあなたのまわりの方の健康のために、今からでも遅くありません。

治療に必要なニコチンパッチは保険診療で処方されます。詳しくは、当院窓口までお問い合わせ下さい。

当診療所では、**止煙出前講座**を行っています。



スモーカーライザー検査

tel:058-296-4038
IP tel:050-5201-5567

・出前講座：(日時等は相談の上)

げられない。早速たこ糸からはずして、半分は柚子のお菓子に、半分はそのままストックした。今年のお茶のお伴に・・・。

(K)